

当日予定プログラム

開場18:20 開会18:40 閉会21:20

【講演1】

司会 リ・ガ・スチント（内モンゴル人民党日本支部副代表）

「ハダ氏について」

（南モンゴル人権情報センターからのメッセージ発表）

「ハイレット・ニヤズ氏について」

「ドンドゥブ・ワンチェン氏について」

「劉曉波氏について」

ケレイト・フビスガルト（内モンゴル人民党幹事長）

ジリガラ

イリハム・マハムティ（日本ウイグル協会会長）

（在日チベット人）

王戴（民主中国陣線）

【講演2・パネルディスカッション】

コーディネーター 小林秀英（チベット問題を考える会代表）

パネリスト ケレイト・フビスガルト（内モンゴル人民党幹事長）

イリハム・マハムティ（日本ウイグル協会会長）

（在日チベット人）

王戴（民主中国陣線）

オルホノド・ダイチン（モンゴル自由連盟党幹事長）

北井大輔（人権活動家）

田中健之（日本チベット友好協会代表）

ハダ（Khadaa）

1955年 内モンゴル自治区興安盟ホルチン右翼前旗に生まれる。

1989年 内モンゴル師範大学哲学碩士

学生時代から南モンゴルの民主運動に参加し、1992年に南モンゴル民主連盟を創設する。1995年12月10日、自著「南モンゴルの出路」の中で、中国国内のモンゴル人の居住地域を分離して実効的な民族自治国を設置し、将来的にはモンゴル国と統一するべきであると主張したとされ、国家分裂罪およびスパイ罪により懲役15年の刑を受けた。服役中も罪を認めず、転向を拒否し続けたため、刑期は1日も減軽されなかった。2010年12月10日に釈放されたが、自宅に帰ることはなく、現在は家族とともにフフホト市内にある人民解放軍の招待所で生活しており、一般人が面会できない状態に置かれている。

ハイレット・ニヤズ（Gheyret Niyaz）

1982年 北京の中央民族学院（現在の中央民族大学）を卒業。

その後「新疆法律新聞」などでジャーナリストとして活動。中央民族大学・イリハム・トフティ副教授が運営するサイト「ウイグルビズ」などでウイグル情勢を漢語で告発したことで知られている。ウイグル人の失業問題や差別の実態などを論じた論文や、2009年7月のウルムチ事件以後に外国人記者から複数回取材を受けたことに対し「国家安全危害罪」の口実で中国当局に拘束される。2010年7月の裁判では、ジャーナリストとしての自身の行動について正当性を主張したが、判決は禁錮15年。現在は刑務所に服役中とみられている。

ドンドゥブ・ワンチェン（Dhondup Wangchen）

1974年 青海省海東州化隆回族自治州県に生まれる。

北京五輪を直前に控えた2008年3月に、抑圧に耐えかねたチベット人の怒りが爆発、騒乱が起きるそのチベット人の思いを伝えるため、35歳のドンドゥブ・ワンチェンは100名を越える一般のチベット人たちのインタビューを行い、そのテープは” LEAVING FEAR BEHIND (ジグデル)”としてまとめられる。本人は、騒乱の最中、2008年3月に中国当局に拘束され、懲役6年の判決を受けたことが判明した。家族によれば、彼は拷問を受け、獄中でのひどい扱いからB型肝炎に感染した可能性があるものの、十分な手当を受けていないという。2008年にチベット各地で起きた騒乱での逮捕者への判例と同様、ドンドゥブ・ワンチェンに対する公判は、一方的に不利な状況で、しかも非公開で行われたものと見られる。現在控訴中で、上級審での判断が注目される。

劉曉波（Liu Xiaobo）

1955年 中国・吉林省長春に生まれる。

コロンビア大学の研究生としてアメリカに滞在していた1989年、中国民主化運動の高まりを受け帰国。運動に身を投じ、知識人と共に抗議活動に参加。天安門事件以降は、国家反逆罪で投獄される。2008年、中国の大幅な民主化を求める「零八憲章」の主な起草者として再び中国当局に身柄を拘束される。国家政権転覆扇動罪で懲役11年の判決を受け、現在服役中。2010年には中国の民主化と基本的人権の促進への運動が評価され、ノーベル平和賞受賞。世界中に、そして彼を「反逆者」として拘束し続ける中国に大きなインパクトを齎した。

国立オリンピック記念青少年総合センター 案内

（東京都渋谷区代々木神園町3-1）

会場：センター棟101号室

◆アクセス

◇小田急線 参宮橋駅 徒歩約7分

◇地下鉄千代田線 代々木公園駅

（代々木公園方面4番出口）徒歩約10分

◇京王バス 新宿駅西口（16番）より 代々木5丁目下車

渋谷駅西口（14番）より 代々木5丁目下車

